

新得高校3年生を対象に選管が模擬投票、北海道新得高等支援学校開校式 ほか



未来を創る一票を大切に

新得高校3年生を対象に選管が模擬投票

7月10日実施の参議院議員選挙から選挙権が「18歳以上」に引き下げられたことに伴い、町選挙管理委員会（原貴行委員長）は新得高校で6月10日、同校3年生を対象に模擬投票を行いました。

生徒達は、同委員会の中田進委員長ら3人のアドバイスを受けながら、昨年12月の衆議院議員選挙の公報などを見ながら、自分で決めた候補者に票を入れていました。

同委員会では「投票率が低下しており、若者の政治離れが指摘されている。未来を作るみなさんは期待されている。ぜひ、自分で決めた投票してほしい」と高校生に呼びかけていました。



開校許可証を掲げる日向正明校長

開校を祝い100人が出席

北海道新得高等支援学校開校式

北海道新得高等支援学校の開校式が6月11日、同校で開かれ、生徒、教職員、来賓者を含め約100人が出席しました。

開校式の受付では、同校の生徒が受付や控え室までの案内を行っており、ハキハキと挨拶し、丁寧な対応をしていました。

開校式では、北海道教育委員会の柴田達夫教育長から開校許可証と校旗が手渡され、同校の門出を祝福しました。代表挨拶では、木工科の生徒が「一期生が目標を持って行動し、皆に自慢できる学校にしたい。自信を持って社会に出られるよう努力していく」と誓いました。



町生涯学習講演会（十勝女性団体連絡協議会、新得町女性団体連絡協議会主催）が6月12日、UHB「みんなのテレビ」の気象キャスターとしておなじみの菅井貴子さんを招いて行われました。「女性の目で見た空模様」と題し講演した菅井さんは、「新得町の過去最高気温は？」、「新得町の過去最低気温は？」など気象予報士ならではの三択クイズを出し、来場者と楽しくやりとりしたほか、自身の経験談を語り「女性のくせにと言われると、女性だって同等にできるんだと悔しく思う時もあったが、今は逆に女性だからできることもあるではないか」という考え方ができるよになった。背伸びをやめたら楽になった」と話していました。



認知症になっても安心して暮らせる街にRUN伴 リレーでタスキをつなぎゴールを目指す

認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーを一つのタスキを繋ぐことで、同じ地域で暮らす人同士が繋がる場を目指すイベントの「RUN伴（フンとも）（NPO認知症フレンドシップ、RUN伴2016実行委員会主催）」が7月3日に行われました。前日に北見市をスタートし、帯広市などを經由後、清水町から来たランナーから南新得でタスキが手渡され、厚生協会やサハロクリニックなどから参加した21名のランナーが町内のゴールであるやすらぎ荘を目指しました。この後、タスキは札幌、函館を通り海を越え、最終ゴール地点の沖縄県那覇市に11月に到着する予定になっています。

新得建設協会が道路の草刈り奉仕、北栄道路側が町有空き地を簡易駐車場に整備 ほか



街をみんなの手でキレイに

新得建設協会が道路の草刈り奉仕

新得建設協会（植村高愛会長）のボランティアによる道路草刈り清掃が6月9日、12事業所20人が参加して行われました。今年で8回目の実施となります。

参加者は、手鎌や刈払い機を手で国道38号線から西1線までの道道夕張新得線（オダッシユ通り）、本通りや1条通りなどの町道の両脇に伸びた草を約3時間かけて除去しました。

伸びていた草も刈り取られ、すっきりとしたキレイな道路になりました。



社会貢献活動に感謝

北栄道路（株）が町有空き地を簡易駐車場に整備

北栄道路（株）（辻恵吉代表取締役社長）が社会貢献活動の一環として6月30日、ボランティアで町有地の空き地の草刈、整地などをし、町民に利用してもらえようように簡易駐車場として整備を行いました。この空き地は、市街地中心部に位置する旧越中屋旅館跡地（約900平方メートル）と旧新得卸売市場跡地（約1390平方メートル）で、昨年度に町が取得した土地で、現在、活用方法を検討しています。町では、同社のこの取り組みに対して感謝状を贈りました。



目録を手渡す田中理事

設立50周年の節目に

十勝測量設計協会が災害用マルチテントを寄贈

十勝測量設計協会の田中雅人理事と村太弘道事務局長が6月23日、町長室を訪れ、浜田正利町長に災害用マルチテント2張の目録を手渡しました。

十勝測量設計協会は平成29年9月12日に設立50周年を迎えるにあたり、その節目として、近年多発する地震・大雨などの災害時に役立ててもらおうと十勝18町村へのマルチテントの寄贈を計画したものです。

このテントは、更衣室やトイレ、授乳等に活用できるため、有事の際の頼もしい味方となりそうです。

温水プールビーバー利用者50万人達成

平成10年に開館し18年目で達成

町営温水プール「ビーバー」の利用者が6月27日、延べ50万人に達したのを記念して、50万人目とその前後の利用者を含む3人に浜田正利町長から記念品が贈られました。記念すべき節目の利用者は、町民大学プール講座「ジュニア水泳」に來た3人で、50万人目は屈足南小5年の渡辺陸玖くん、49万9999人目は同小5年の小林琉花さん、50万1人目は同小2年の玉澤健太郎くんでした。

オープン当初は年間利用者数が2万5千人前後で推移していましたが、ここ数年は約3万2千人程度が利用しています。みなさんも健康づくりに「ビーバー」を利用してみたいいかがでしょうか。



左から玉澤くん、渡辺くん、小林さん